



愛

官能

我慢できな

を

小説家

畳の上で何度も、何度も

1

御井ミチル

は

続きの言葉も

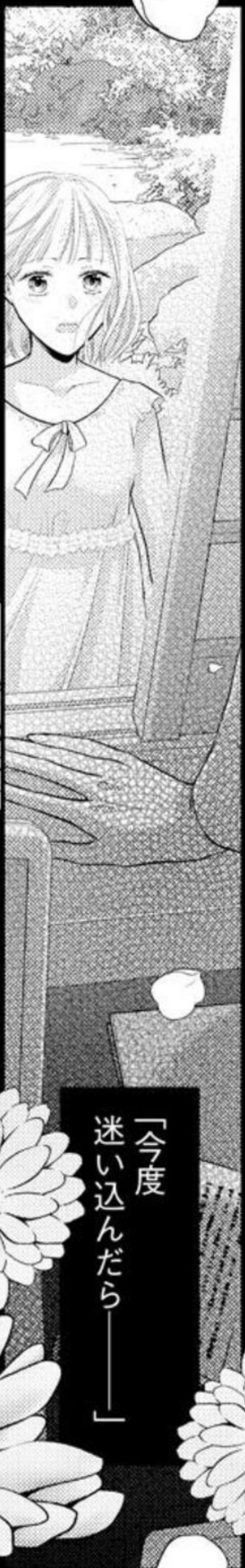
誰に
言われたのかも

忘れてしまった

「今度
迷い込んだら——」

「君はまだ
ここに来ては
いけないよ」

——
遠い昔誰かに言われた



それでも
その言葉は
心の奥底に
眠っていたんだらう

いつの間にか
足が遠のくには
十分だった

たまに必要に迫られて
近くを通ることが
あったけれど
なぜだかすごく

ドキドキして…

…あ

私にとって
この「離れ」は

あん

はあっ…

もう…
やあっ

だめえっ！

秘密の小部屋

…

「次にここに
迷い込んだ時には」

「君を食べちやう
からね」って

——言った
はずだよ

ふああ！

ああっ

ひゃあっ

そ…
んなっ…

ぬちっ

ぐちゅ

ぐちゅ

グッ

グッ

グッ

ぬち

ぬち

ぬち

ぎゅ

にちゅあ

にちゅ

トロ

トロ

アラ



いひ...

いひ

っ

はひ

あ

ゆるるるる

あ

あ

あ

あ

あ

あああんっ!

ヒクヒク

なんでも

こんなこと...

ヒクヒクヒク

ここは
私の実家

徒野亭

温泉宿
「徒野亭」
あたしのいえ

温泉宿

徒野亭

専門的なものを
学ぶために
ずっと家を
出ていたけれど

ここに
戻ってくるのも
久しぶりだなあ

わかおかみ
若女将として
働く

これから私
あたしのましろ
徒野真白は

うん
着付けも
問題なさそうね

少し館内を
見回って
おこうかな

…今日は
まだ出勤じゃ
ないけど
せっかく
着物着たんだし…

キョッ



離れ…

あ…



「まっくに来ては
いけないよ」

ブツッ

…これから私も
この徒野亭の一員に
なるんだもの
そんなこと
言ってられない
よね



…とは
言いつつも

あまりにも
久しぶりで

すす…

少し
緊張する…



!

綺麗な人…

あ…

わあ笑うと
もっと美人…!

ああの
どちら様で？

どうして
離れに…？

…ああ…!





...

うわぁー

!!!

ハハハ
ハハハ



うそじゃないの！
だって

なに
寝ぼけた
ことを

あら？



コラ！
ここでは「女将」って
言いなさい！

離れに
変質者が
いるっ！



おっ
お母さんっ
お母さん！



ひゃあっ！

びっ

あとで
紹介しようと
思ったんだけど
ちようどいいわ



もう
お会いした
のね

え？



こちら
つかおうちちろう
司皇一郎さん

有名な
小説家の先生よ



でもアンタ
昔から離れが
苦手だったじゃ
ないの
いつの間にか
近づかなくなっ
ていたし…

昔から
離れを仕事場として
利用して
くださっているの



…別に
苦手だった
わけじゃ

昔から
いたって
いうなら…

ええっ!?
そんなの
初めて聞いたよ!

そうだった
かしら?



女将
よろしい
ですか?

はい
今行きます



それじゃ先生
失礼します

ええ



私
この人に会ったこと
あるのかしら…?



…え

待って！
二人で
残されても
どうしたら
いいの…!?

はい



自己紹介も
兼ねて

僕がどんなものを
書いているか
知ってほしいな



うつつ
笑顔が
眩しい…!



なんで
私にキスを
!?



…ありがとうございます…

これから
よろしくね
真白ちゃん



「綺麗な
ピンク色をして
震える女陰」

「長い間
待ちわびたそこは
想像を絶する
美しさだった」

「食い入るように
見つめると一層
香りが濃くなり…」



おずおず

ひやあああつ

これっていわゆる
「官能小説」って
やつじゃ…!?

ばたんっ

…って
これ…!?



うゝ
ちら

もじ

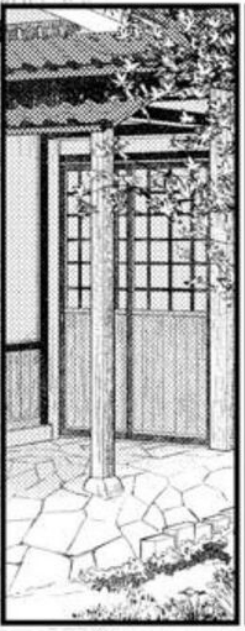
…あの人が
こんなにエッチなもの
書いてるなんて…



お返しします



小説



ふん…



私には少し内容がハードすぎて最後まで読めそうもなかったの



別に返さなくていいのに

いえ

「秘めた蜜壺^{みつづほ}から
溢れた甘い汁に
溺れそうになる」

「その間にも
私の逸物^{いちもつ}は
天に向かい
そそり立ち」

「そこに
包まれる瞬間に
大きな期待を寄せて
しずくを零^{こぼ}しながら
震えていた」

なっ
なんですか
いきなり

なにをっ!?

あれ…?
もしかして…



スルッ

ひやあああつ

スル

っ!
!?

ここ
濡れているよ?

ほあ

じわ...



これが
途中までしか
読めなかった人の
反応かな?

かああつ

ぬるり
ぐち

ん
ト
ト
じわわあ...

下着の上からでも
糸が引くほどに...

あつ!
ぐちり

スリ
スリ

にぢ



ああ
可愛いなあ

可愛いよ

ふああ



その顔が
見たかったんだ

僕の手で
乱れる姿を

さつきから
おかしなこと
ばかり――



淫靡な君が
僕をこうした

!?

そして
もっと見たい
君の全てを

グリ...



――なんで
こんな……

あ

はあっ

あ…は…

君の
秘められた
イイ場所：

さわわ...

この辺？

ひゃうっ

ちゅっ
ちゅって

口付けをする
ように

や

はあ

あっ

たっぷり
愛でてあげる

やんっ

ぬちゅ

にちゅ

ぐち

ぬち

にちゅ

ぐちゅ

ぬちゅ

ふああ！

：ああ
君のこども
知っていたって
言っている
ようだ

ヒクヒク

にちゅ

ぐちゅ

あ

ぬちゅ

んっ

そんなこと...
なっ...!

：ねえ君には
自分の意思で

受け入れて
ほしいんだ
：僕を

ぽん

二人の
初めてを

知り合った
ばかりの人と
なんて……!

くっだめえっ

ドッ

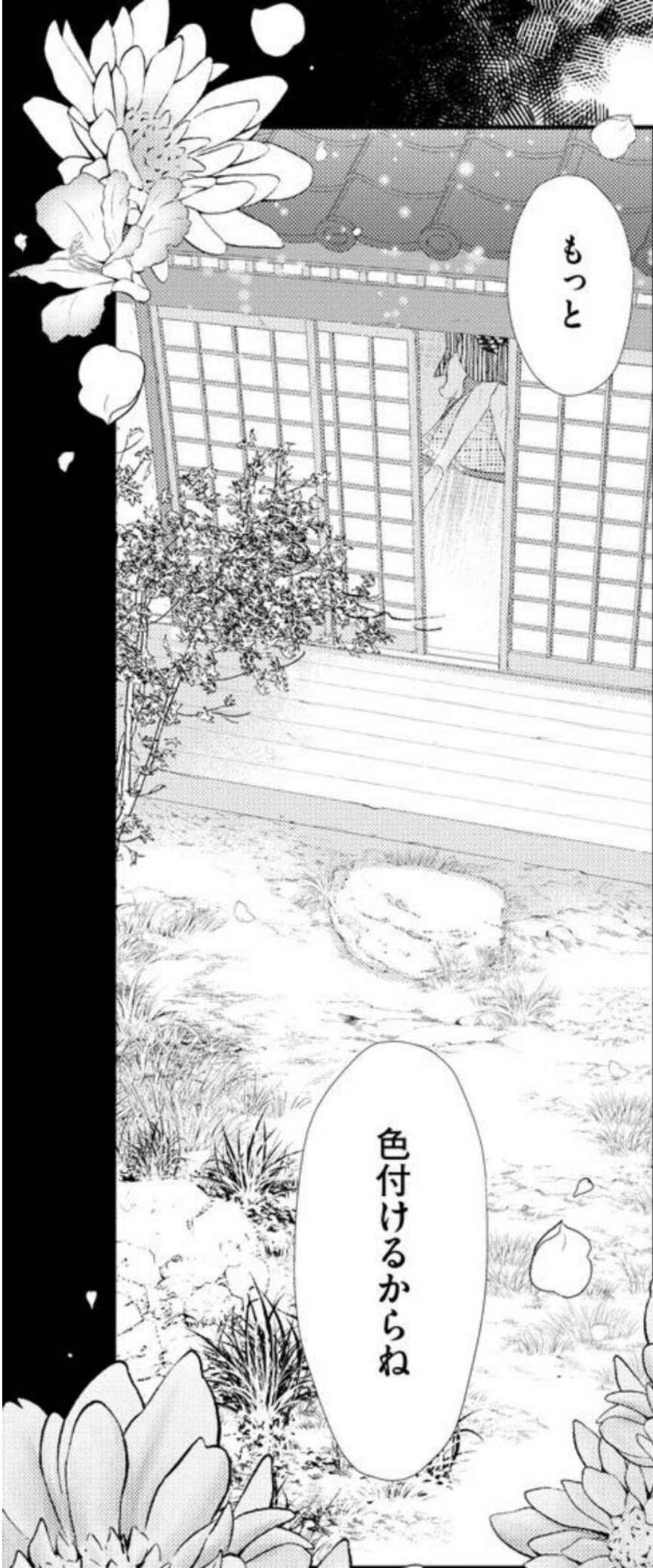
——そう
わかったよ

こんなに
淫らなくせに

僕を拒むなんて
いけない娘だ——



君の白い肌に
僕のが...



もっと

色付けるからね



とても
綺麗な
だ

これから
もっと

毎月第3
木曜配信

オトナ女子の癒し系
TLマガジン!!



Premium Kiss
【プレミアムキス】

極上ミダラなHもハッピーHも♪
TLコミック誌!!

毎月第1
木曜配信



禁断ラビーズ
【禁断Lovers】



ぶんか社の
デジタル
コミック誌

毎月第4
金曜配信

Hもドキドキもカワイイも♥
女の子の“好き”が詰まってる!



ラブキス! more
【ラブキス! more】

愛され女子のための
甘きゅんTLマガジン

毎月第2
木曜配信



Anette
【無敵恋愛S*girl アネット】



愛

官能

我慢できな

を

小説家

畳の上で何度も、何度も

2

御井ミチル

は



愛を 官能小説家 は 我慢できない

畳の上で何度も、何度も

2

御井ミチル



やっぱり
わかおかみ
若女将の仕事は
忙しいなあ

——でも
そのおかげで

ふう...

ちやぽ...



あんなっ…



あの人に会わずに
すんでいるんだけど



…また離れに
近づけなく
なっちゃったな…

カララ

誰?
仲居さん?



あれ
真白ちゃん?

!?



きやあつ

ばしゃ

同じ敷地内に
住んでいるのに

全然
会えなくて
寂しかったよ

久しぶり
だね

ハッ

かぼ

なっなんで
司さんが
ここに!?



僕も
従業員のみんなと
同じ時間帯に
入浴することが
許されているんだよ

さぼ...

不規則な仕事
だからね

私もう
出ますからっ

そう

っ
司さんの横を
通らなきゃ
出られない……!

わざとだ

出るんじゃない?

ア・レから
僕のこと
避けていたのに

もう
逃げないの?

ギョッ





ちよつと
待って!

ヒクッ

まじゅ

また
色付ければいいのか

まじ

ちよつ!?

そこに
人がいるかも
しれない
のに:!!



しー:
じゃあ静かに
しなきゃね

そしたら
痕あとを残さなくても
みんなに
君と僕おれの関係を
知ってもらえる

僕は別に
見られても
構わないんだけど

ちゅ...

んんっ

んむっ

ふあ...

ちゅく

くちゅ

くち

か
関係って…

あれ？
また
忘れちゃった？

僕に舐められて
ドロドロに
蕩けたこと

何度も何度も
絶頂を迎えたこと…

かああ
あっ

「また」…？

くちゅり

やめて…！

君は美しくて
淫らだね

こうして
自ら胸を
押し付けて
僕を誘う



あつ……!

やっ

くちり



違^{ちが}ちっ

ハッ

ハッ
ハッ



触れられて
乱れる姿を
見せびらかせて

!?

じっ



あんっ

はっ

ハチ
ハチ
コポポ...

僕と
噂になろう?

ああっ



はあっ

あ

フル

あん

はっ
しゃっ



んあ

熱いの……!
お湯が中に……

僕の指を濡らすのは
湯だけ?

ぬる
ちや
ぬる
ちや
ぬる



もう
だ...め...

は...

フラ...



...真白ちゃん?

真白
ちゃん...!!

くた...



カキカキ

ちゅ

思い出したらいけど

グキ
グキ
ちゅん

あああんっ!

ニャッ



そっか
私温泉で
のぼせて...

ここは...
離れ...?

ん

...なんだか
気持ちいい...

サ...

ごめん
真白ちゃん
ここ数日
君が僕を避けるから
少し意地悪を
してしまっ



...司さん...?

「ありがとう」って

...本当は
君にずっと
言いたかった

...何が
ですか?

よかった
目が覚めたん
だね

何が
「ありがとう」
なんですか?


!

君は
覚えていない
ようだけど

僕たちは
数年前に
出逢っているんだよ


…昔

やっぱり…



僕は純文学を
得意とする
小説家だったんだ

デビュー作で
賞を取り
一躍有名になった



その当時から
徒野亭あだのていでお世話に
なっていてね


ここにも
取材が
来ていたよ

そうだった
んですか？


私
全然覚えて
なくて…

え…

スランプに
陥ってしまった
んだよ



メディアは
新進気鋭の作家として
大々的に僕を報じた



だがそれも
続かなかった



純文学で
賞を獲った作家が
官能小説…
話題性は抜群だ

僕に
「官能小説を書いて
みませんか」と
言ってきた



当時の
担当編集も
焦ったんだろう



今思えば
僕を思つての言葉
だったと思う

以前から
「文章に色気がある」と
言ってくれていたから



もう筆を折る
しかないかと思つた
そのとき



だがプライドの高かつた僕は
ネームバリューがあるうちに
利用し尽くされるんだと
感じて



PCに向かつてみたものの
結局何も書けず…

そんな気持ち
からか

素直に頷くことが
できなかつた

おにいちゃんは
お客さま？

君に出逢った

こんにちは

私
徒野真白です

……
眩まぶしかった



絶望に
飲み込まれた僕を
救いに来た天使かと
見間違うくらいに――



!?
なんなん
で
そんな……!

なぜって?
それは

それとは真逆の
男を虜にする
美しい肢体しな



一瞬で映像が頭を
駆け巡ったんだよ

純粹無垢に
陽の光で輝きながら

妖艶な
数年後の君が

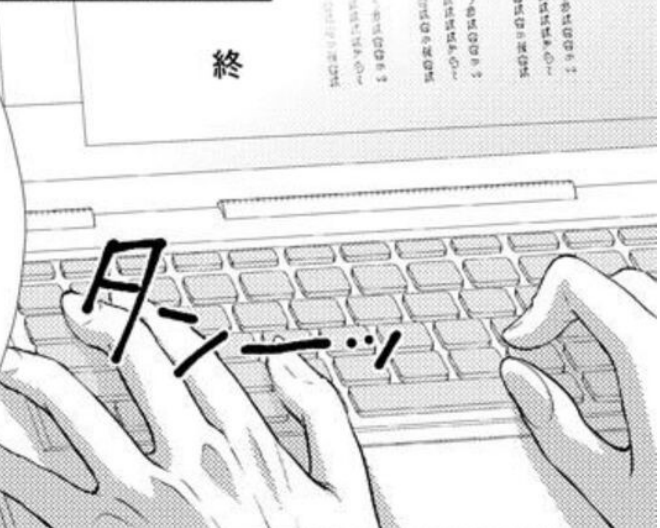
最高傑作になった



アイディアが湧いて止まらなくなった



未来の君をモデルにした官能小説の処女作は



あのととき君に出逢えていなかったらとつくに廃業していたと思う



わっ「私がモデル」ってそういう…!?
でもそんなんっ



ドキ

ありがとう

大好きな小説を
書き続けさせて
くれて

僕には君が
必要なんだ

これからは傍に
いてくれないか？

出逢ってから

少し
飄々とした姿とは
違う



真摯な言葉



あ…
司さ—







嫌じゃ…ない

…いの？

え



…真白ちゃん…？

あっ？



私…

私!?



…こっん



挿れるね

あ



す!!

んっ

めち... くちゅり

あ...

す!!

す!!

す!!
...

はあっ...

は



は

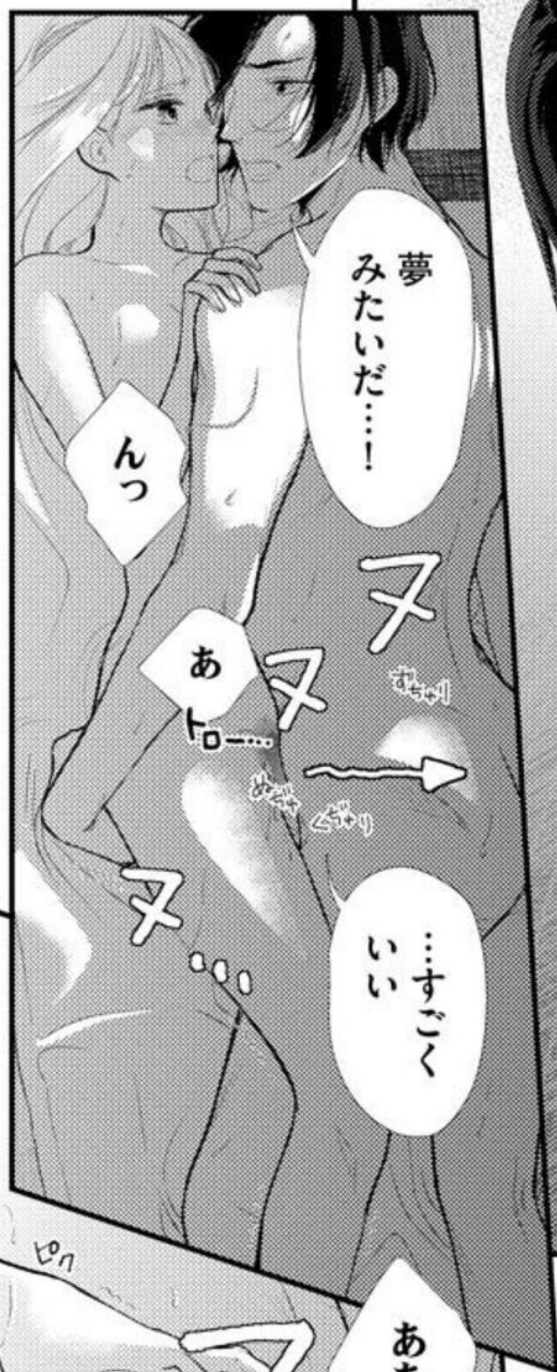


ふ...

あ...あ

...やっとだ...

やっと君と
繋がれた...



夢
みたいだ...!

んっ

あ
ん

ん

...すごく
いい

ん



ふじっ...

そんな
嬉しいような顔っ...!

はっ

あ

トクッ



ふあ

っああ!

きゃん

あっ



ああん

気持ち
...いいっ

ん

ん

ん


ん...

っはああっ



...ああ本当に
君に包まれて
いるんだね

はあ...



愛してるよ
真白ちゃん



愛

官能

我慢できな

を

小説家

畳の上で何度も、何度も

3

御井ミチル

は



官能小説家は

愛を

我慢できない

畳の上で何度も、何度も


3

御井ミチル




温泉宿
徒野亭

ありがとうございます
ございました



またのお越しを
お待ちしております
おります



あれ？



あそこに
いるのは
司^{つか}さん？

ひら

っ!
!?

なに
その顔…!!

ドキッ



仕事の打ち合わせ場所
ここにきて
もらったんだ



いつの間に…
とうかかなんで
ロビーに!?

ふああい!

ましろ
真白ちゃん?



あんな…
し幸せ
いっぱい
みたいになっ



真白ちゃんの顔が
見たくなくてね

また
蕩けた顔で
そんなこと…!



もしかして
あなたが先生の?

お取り込み中
失礼します



心臓が
持たないよ…!



紹介するよ
彼女が僕の
小説のヒロイン

あだしの
徒野真白ちゃんだ



私は司先生の
担当編集をしています
田辺^{たなべ}と申します



こっ
こんにちは！

……



…先生の足を
引っ張らないで
いただければ

…この田辺さん
という人



先生の「ヒロイン」とは
ずいぶん印象が
違うようですが



…ふう
参ったな





官能小説家の
手伝いってなに
!?



え……

真白ちゃん少しだけ
僕の仕事を手伝って
くれないか？



司さんにとって小説は
とても
大切なものだって
知ってるから

私にできることなら
手伝いたいけど……



…ダメかな？
執筆が進まないのは
真白ちゃんのせい
なんだけどなあ

私ですか!?

そうだよ僕を
「幸せボケ」にした
張本人の真白ちゃん

なっ!?



あ・の・と・き・の
真白ちゃんが
可愛くて可愛くて

思い出す時間が
増えてしまっ
てね

ちゅ



わかりました
手伝います
からっ！

ありがとう
真白ちゃん



こっ
こんな
ところで！

ぱっ



…僕に
しがみついて

トロトロで
熱くて—

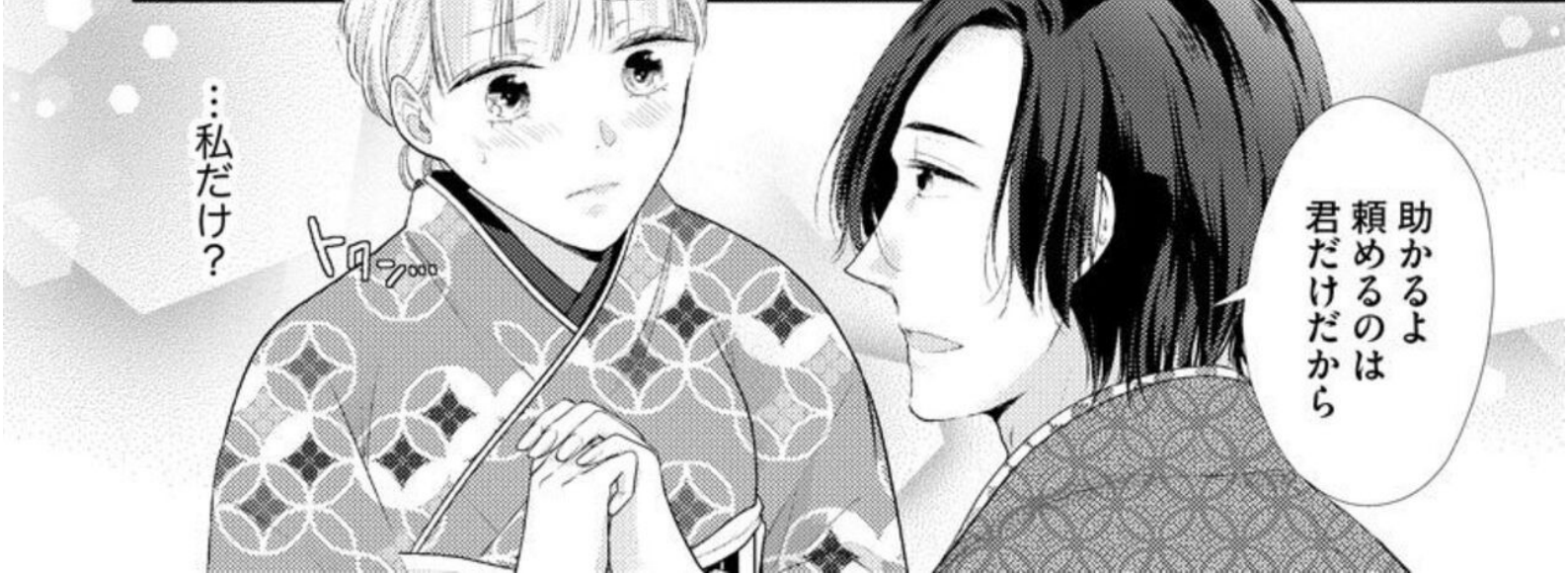
ぽ

~~~~~

…私だけ？

ぽ

助かるよ  
頼めるのは  
君だけだから







これなら  
どうだろう



見られながら  
なんてっ!!  
僕の視線が  
気になる?



それなら



つつ  
司さん!?

大丈夫  
何も怖くない

想像して?



今は何もかも  
隠してしまう  
月も出ていない  
深い夜



君は  
自室に一人だ

気持ちよくなる  
ことだけに  
集中できる



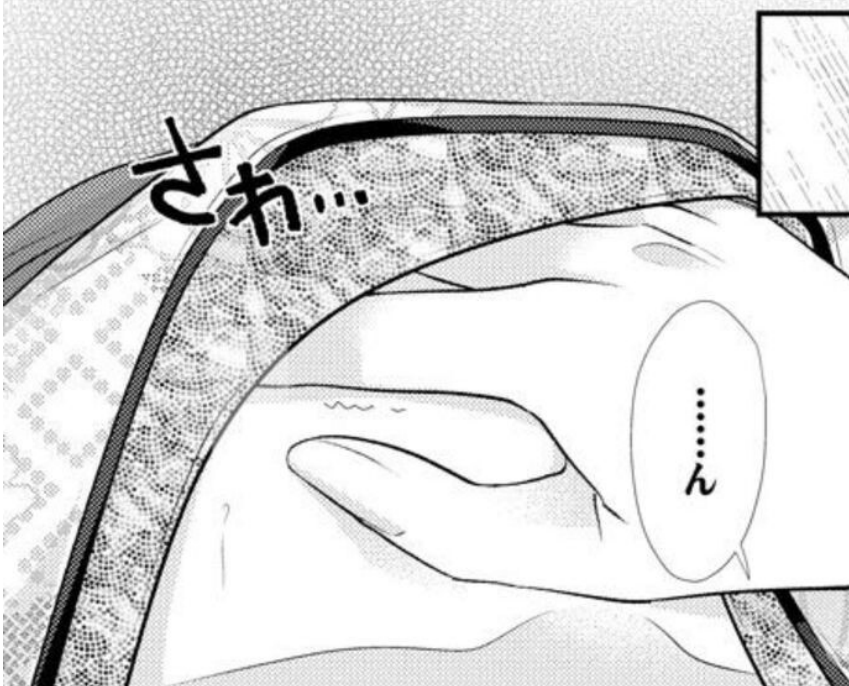
着物の  
合わせ部分から  
手を入れて

乳房に  
触れてごらん



…は

司さんの  
優しい声が  
心地いい…



さわ…

……ん



導かれるまま

きゅっ



はあ…



爪先で軽く  
引っ掻いたり

あ

か

か



強弱をつけて  
つねってみたい

ん…あつ

きゅっ

きゅっ  
きゅっ



そう優しく…  
優しく

もぞ…

ふ…

触れて  
しまう…!

次は桜色の  
可愛い乳首へ  
指を這わして…



あれ？  
真白ちゃんの  
反対の手…

あつ

もぞ

もじ…  
あるの？

はあ

もじ…



…ああ  
だいぶ  
焦れていたんだね



やつ

私…!

いいんだよ  
そのまま



色が  
変わっている

っ  
じゅわ…



下着を  
脱いで

ふ...

もっも  
気持ちよく  
なろうか？

もっも

みるみる

やあっ...



どうして  
従っちゃうの？

...大事な  
ところ



っ

はっ...

ゆっくり  
広げて...?



あっ

わっ

そして  
奥に隠れた  
可愛らしい君に  
そっと触れて



…ぷっくりと膨れてきたね

あん

下の秘めた場所が何かを求めるようにきゅきゅきゅしているよ

…さあ君の細くて美しい指を

まずは…一本

ああん

はあっ

ふあっ

トロー…

あっ



ああ…

…足りない…



…この間みたいなのには程遠い…

司さんの骨張った長い指で

あっ

奥深くを優しく触れてほしい…!

んあ…はあっ

あつ あつ あつ



真白ちゃん…

私を見ながら

司さんも  
してるの？

ふあああつ…！

もしかして

っ!?

はあつ…

真白ちゃんっ



あつ

あ

もうっ…！

はあつ

もう一本  
指を増やして！





っ真白ちゃん…!!

あああんっ!

あ…

ふあっ

はっ…

トク…

私…

私っ

っ司さん…



は

はあ

っ

は

はっ  
はあ



田辺です

!?

電話しても  
返答がなかったの  
で直接伺いました



…ちよっと  
出てくるよ



あー  
今入浴後で  
だらしない格好を  
しているんだ

行っちゃった…



真白ちゃん…

司先生  
いらっしやいますか？



わかりました  
それでは

原稿進んで  
いなさそう  
ですね

…すまない



だから  
ここで

それは  
失礼しました



ええっ!?  
担当だからって  
そこまでする…!?



私が  
先生の前で  
自慰をします



こう言っっては  
なんですが  
司皇おういちろう一郎の  
相手にしては  
真白さんはあまりにも  
平凡に見えました



もしかして  
二人は  
そういう関係  
なの!?



真白ちゃんから

……初めてのキスだ

あっ…!?

はっ





!?

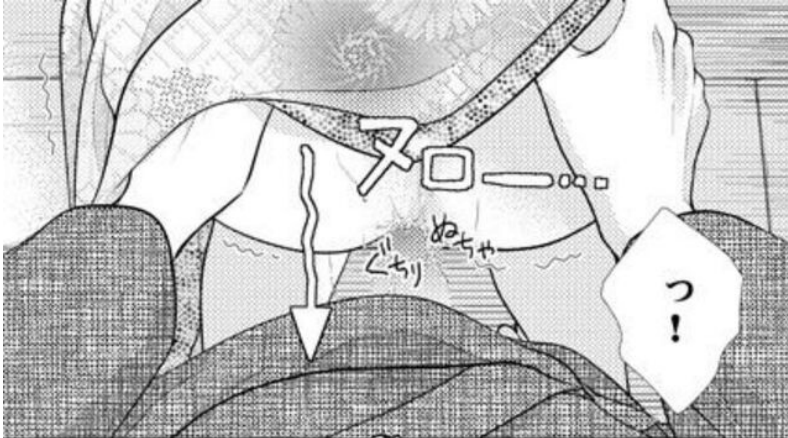
くわい

っ

!!

ふふ...

くわい...



アロ...

ぬちや

っ!

はちやん

ぬちや

ぶじっ!!

んっんうっ!

...はっ

そんなの...

私にはわかりません  
先生が彼女のどこに  
ひきつけられているのか

やあ...!

っつ  
司さん...!

真白ちゃんのことば  
僕だけが知って  
いればいい





でしたら  
完成次第  
送ってください

失礼します



…そうですか

ダメえっ…!

…ダメ



私の性格も  
真白さんの性格も  
熟知した上で

私が彼女を  
どう揺さぶるか



彼女も  
あの場合にいた  
きっと

司皇一郎…

知れば知るほど  
頭の良さを  
見せつけられる

きっと私も駒の二つ…  
彼の掌で  
踊らされている



あの司皇一郎が  
女性の自慰を  
見たことがないから  
書けないなんて

そんなこと  
あるわけがない

それが  
どういう結果になるかも  
計算すくなんだろう

：私は  
いい作品を  
作るためなら  
なんでも  
協力しますよ

先生——

ああっ！

っあああ!!

んっはあ

はっ

は

はあ

は





真白ちゃん  
ずっと  
想ってきた

あつ

僕の心を  
いつときも  
離さなかった

君を  
愛してる

花開くように  
成長してきた君を

愛しているよ

おぼろげ  
だったけれど

…今までも…  
これから先も  
ずっと…ね

…このとき  
皇二郎さんに  
翻弄されていて  
…確かに感じた

はあつ

んああつ  
あつ

ああああ!!

微かな違和感



毎月第3  
木曜配信

オトナ女子の癒し系  
TLマガジン!!



Premium Kiss  
【プレミアムキス】

極上ミダラなHもハッピーHも♪  
TLコミック誌!!

毎月第1  
木曜配信



禁断ラビーズ  
【禁断Lovers】



ぶんか社の  
デジタル  
コミック誌

毎月第4  
金曜配信

Hもドキドキもカワイイも♥  
女の子の“好き”が詰まってる!



ラブキス! more  
【ラブキス! more】

愛され女子のための  
甘きゅんTLマガジン

毎月第2  
木曜配信



無敵恋愛 S\*girl エススター  
Anette  
【無敵恋愛S\*girl アネット】